

平成17年度

病虫害発生予察特殊報(第5号)

平成17年12月26日
神奈川県病虫害防除所長

病虫害名： サトクダマキモドキ
Holochlora japonica

作物名： チャ

1 発生経過

- (1) 平成17年9月に藤野町で栽培されているチャにおいて、遅れ芽の先端部から数葉目の節間に摂食されたような痕や、場合によっては折れてその上部が枯死する症状を病虫害防除所職員が発見した。
- (2) 同年10月に再度現地を調査したところ、10㎡当たり数本の遅れ芽で同様の症状が認められた。また、農業技術センター北相地区事務所研究課のチャ園(相模湖町)でもこれらの症状が見られ、更に、産卵痕も認められた。産卵痕は12月に山北町の幼木園でも確認された。
- (3) 本症状からクダマキモドキによる被害が考えられたため、農業技術センター北相地区事務所研究課のチャ園で採取したサトクダマキモドキをチャの遅れ芽で飼育したところ、同様の被害が発生し、本症状が産卵行動によって生じることがわかった。
- (4) サトクダマキモドキによるチャの被害は、本県で初めての確認である。

2 形態および生態

(1) 形態

バッタ目キリギリス科で、ツユムシに近縁な仲間。成虫は全長42～56mm、体翅とも全体が緑色で、体は極端に縦長の扁平、触角は長く淡褐色である。雌の産卵管の幅は広く、短く、上方に湾曲し、上下両縁は鋸歯状を呈する。

(2) 生態

年1回の発生で、卵で越冬、幼虫は5～6月頃孵化し、樹上や雑草で生活する。成虫の発生期間は8～11月で、雌成虫はチャ樹などの細枝に裂傷をつくり、5～12cm程度の縦長で縦に2列に密接して多数産卵する。その際深い傷を生じ、傷跡はささくれて木くずが外に出る。

3 被害および寄主植物

(1) 被害

チャの遅れ芽の先端から数葉目の節間が削られ、場合によっては折れてその上部が枯死する。

また、産卵場所の枝は発育するにつれて裂け、後に枯死することがある。飼育試験では葉の中央脈に摂食したような被害が見られたが、野外では確認されていない。

(2) 寄主範囲

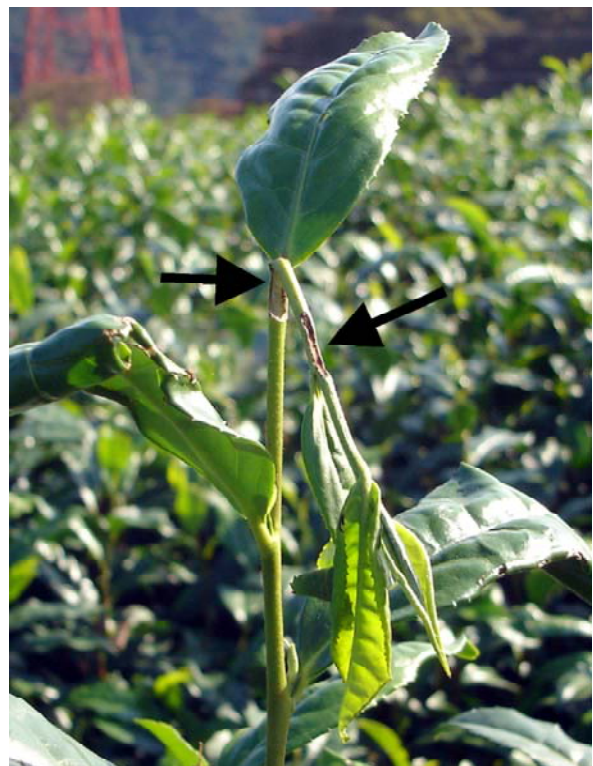
チャのほかカンキツ、カキ、モモ、ウメ、スモモ、アンズ、オウトウ、リンゴ、ナシ、クリ、ブドウ、ビワ、イチジク、クルミ、クワ、サクラ類、フジ、ツツジ、ヤマブキ、ゲッケイジュ、ネコヤナギなど果樹や庭木の枝にも産卵するという報告がある。

4 防除対策

- (1) 剪定時に産卵された枝を除去する。
- (2) 幼虫が寄生する雑草の管理を徹底する。
- (3) サトクダマキモドキには登録薬剤はない。



サトクダマキモドキ (成虫)



産卵行動による被害 (矢印)



産卵痕

神奈川県病害虫防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレフォンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp